

『 "Friends of the United Nations Sing for Smile Program  
～ 大船渡市・陸前高田市 支援" 』

朝日新聞 掲載記事 (平成 24 年 1 月 22 日付)



岩手日報 掲載記事 (平成 24 年 1 月 22 日付)



# 『"Friends of the United Nations Sing for Smile Program ～ 大船渡市・陸前高田市 支援"』

東海新聞 掲載記事 (平成 24 年 1 月 22 日付)

第16253号 平成24年(2012年)1月22日(日曜日) 日刊(月曜日休刊) (6)

## 心の健康カラオケで 医療相談「国連の友」支援スタート

大船渡

国連の友Asia Pacific「援プログラムは別日か Pacific」による、大船渡市立根町の「心のケア」被災者支援「富田仮設住宅(大船渡)」早速住民らがマイクを握り、歌声を通じて交流を深めた。また、今後各地を回る簡易診療車ではセラピー犬とともに医師らが相談に応じ、心の健康を支えることとしている。

同日は集会所前でオーフニングセレモニーが開かれ、関係者や団地内に暮らす住民ら約30人が出席。国連の友設置されたカラオケカーで歌声を響かせる地域住民に立根町

Asia Pacificの金森孝裕理事は「自発的に参加してもらい、住民同士がつながりが深まれば」と期待を寄せた。医療支援にあたる松田医師も、カラオケなどの心身両面の健康効果を強調。富田仮設住宅自治会の平山清人会長は「この団地は120戸あるが、高齢者や独居世帯が40世帯を占める。不安を抱えて暮らしていると思うが、大きな声で歌うことは、自分自身でできる良い処方になる」と述べた。この支援は、住民間のコミュニケーションや心療医療が行える場を提供することで、心のケア支援を充実させようとする。仮設住宅では最近、孤立化や引きこもりなどに対する懸念も広がっている。

(例)第一興産、日野自動車、三共、メデイカルサイエンスのほか、市社協が協力。簡易診療車やカラオケカー、移動用車両の3台体制で回り、医師や看護師らも従事する。カラオケカーは富田

仮設団地内に3週間程度常駐した後、今後は末崎町の山岸仮設住宅(末崎小校庭)、三陸町越前町の杉下仮設住宅(山村広場)でも同期間予定。陸前高田市内も回り、気仙沼市では当面3カ月程度のプログラム活動を計画している。

また、巡回医療では幅広い住民らの相談に応じるほか、サモエド犬による「セラピー」犬も同行。療しの空間提供にも力を入れた

セラピー犬とともに今後の支援に意欲を显せる松田医師(同)

日は同7時から同9時までの時間帯も受け付ける。仮設住宅の支援員らが予約に対応。団地内のごまらず、一般住民も住民らを含め誰でも気軽に利用できる。

利用時間が重なった場合などは「合い席」を勧め、交流のきっかけづくりも後押ししたい考え。問い合わせは、東日本大震災支援活動委員会の今野さん(TEL090・9747・2464)へ。




『"Friends of the United Nations Sing for Smile Program  
～ 大船渡市・陸前高田市 支援"』

読売 掲載記事 (平成 24 年 1 月 22 日付)

1月22日(日曜日) 宮城 登壇 桑戸 月

## 東日本大震災 明日への 掲示板

### カラオケカー 仮設をゆく

岩手県大船渡市の仮設住宅に21日、「カラオケカー」が登場し、住民に開放された。業務用カラオケ機器大手の第一興商が、住民にストレスを解消し、親交を深めてもらおうと、2台冷凍車を改装して用意した。

車は、同日から関連承認の非政府組織(NGO)「国連の友」が始めた巡回診療に同行。4月まで2週間、とくに大船渡、陸前高田市内の仮設住宅を回る。

約8平方メートルのスペースに、机やソファが並び、6人ほどが入れられる。演歌やポップスなど10万曲以上を歌うことができ、子どもからお年寄りまで楽しめる。

国連の友の医療団リーダー 榎田仁医師(69)によると、音程やリズムに合わせ、感情や音量を調整するため、カラオケは脳を活性化させる効果があるといい、「ストレス解消はもちろん、大勢で楽しむことで心のケアや健康維持につながる」と話す。

この日、友人の前で五木ひろしの「細雪」を披露した無職新沼克典さん(78)は、「とても気持ちが良く、元気がわいた」と喜んでた。

●第一興商から用意されたカラオケカー ●カラオケカーで歌を楽しむ人たち(岩手県大船渡市)




### 町外にも復興住宅建設

#### 浪江町 復興ビジョン 中間報告

震災と福島第一原発事故で全町民が避難している福島県浪江町が、町復興ビジョンの中間報告をまとめた。町では、年間放射線量が50μSv以上の「帰還困難区域」になる可能性がある地域もあり、長期間にわたって帰れない町民にも配慮した内容となっている。

中間報告は、「すべての町民の暮らしの再建」「ふ